

名古屋大学医学部人体解剖トレーニングセミナー活動報告

○浅野文子、正岡実、高木佐知子、程晶磊

生物・生体技術支援室 生体機能解析技術グループ

概要

1981年(昭和56年)より若手解剖学教育者を対象とし、解剖教育技術向上のために名古屋大学医学部人体解剖トレーニングセミナー研修会が、毎年夏に鶴舞キャンパスで開催されております。本セミナーは全国医育機関の解剖系教員の技術向上のための研修会の場で、一昨年第40回が開催され教員受講生も累計1000名を超えました。また、永年の開催により解剖教育への貢献が認められ、篤志解剖全国連合会より「篤志献体賞」を授与されるなど、名古屋大学の社会貢献の一端として全国的に認知されている会です。今回はこの歴史あるセミナーの実際とその周辺を紹介します。

1 はじめに

人体解剖実習は医学教育の基盤として、さらに医師になるための自覚と倫理教育のために極めて重要な科目です。通常医学部学生は1~2年次に3~4ヶ月をかけて人体解剖実習を行います。この長期間の実習により学生は人体構造の隅々を実際に確認することになりますが、その指導は教員のレベルと質によるところが大きく、人体解剖教育に携わる教員の訓練が極めて重要になります。一方で、近年は解剖学教室のスタッフの減少やご遺体の制限などにより、個々の大学では解剖教員の技術指導を十分行えない状況が発生しております。このような解剖教育の全国的な問題点を解決するために、名古屋大学では、解剖系教員やOB教員有志による、教員を対象とした人体解剖トレーニングセミナーを開催し研修生を全国の医育機関から引き受けることになりました。現在は、医学系研究科からもサポートいただき、国内で解剖教育の拠点として不可欠の研修の場となっています。

2 医学教育として人体解剖を行うための法律と献体団体によるサポート

医学や歯学の教育をする大学で人体解剖ができる根拠となる法律が死体解剖保存法で、人体解剖はこれに基づいて解剖系の教授または准教授の指導のもと学生は解剖実習室で行うことができます。また、献体に関する法律により、篤志献体者のご遺体を保存し解剖実習に供することができることとなります。

2.1 死体解剖保存法

昭和24年に制定。医学の教育又は研究のため特に必要があるときは、遺族の承諾を得て、死体の全部又は一部を標本として保存することができる。

2.2 医学および歯学教育のための献体に関する法律

昭和54年 日本学術会議は内閣総理大臣にあて、献体登録に関する法制化の促進勧告を行い献体の意義を国が公に認めることとなり医学および歯学教育のための献体に関する法律が制定された。医学や歯学の発展のため、医学生や歯学生の教育のために献体となった本人や遺族の提供意思を尊重しつつ

図1 感謝状



謙虚な姿勢で解剖実習が行われるようになった。昭和57年からは献体者に対する感謝状贈呈（図1）が文部大臣から行われるようになった。

2.3 篤志解剖全国連合会

全国の医学・歯学教育を行う大学には篤志による献体団体が設置され、献体の必要性を社会に普及する活動をおこなっており、献体者の各種活動を全国的にサポートしている団体が篤志解剖全国連合であります。名古屋大学も名古屋大学の献体団体である「不老会」と一緒に加入し活動しております。

2.4 名古屋大学の篤志献体団体「不老会」

愛知県下5大学の医学部・歯学部 共通の献体団体が「不老会」でその中に各大学の支部があり、献体団体としては全国一の規模を有しております。

不老会は初代理事長の久野庄太郎氏が設立しました。久野庄太郎氏は篤農家であり、知多半島地域への用水のため、木曽川から引水した愛知用水を作りました。愛知用水が作られたおかげで水不足は解消し産業は発展いたしました。工事で犠牲となられた方々は56名にも登り、久野氏は自責の念を感じ苦しんでおられました。名古屋大学総長勝沼精蔵先生に 医師の養成のためには解剖学が必要であり、解剖用のご献体数が不足していると教えられ、自らの遺体を献体（昭和36年7月13日登録）することによって安心立命を得ることができました。そして、家族や同志にはたらいかけ、その輪を拡げていきました。これが不老会の始まりとなりました。久野氏の高い志の輪は広がり、現在は24,815名（R4.2.1）まで広がっています。不老会は昭和37年に設立され愛知県下5大学の医学部・歯学部と連携して献体受付業務を行っています。

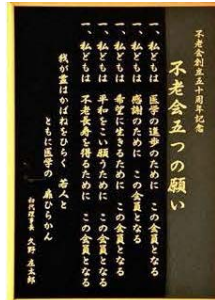
名古屋市千種区の平和公園には「献体の塔」（図2）が立地し、献体を通して医学の進歩に貢献してきた方々の尊い志を顕彰（けんしょう）する碑となっています。

不老会5つの願い（図3）は医学部解剖実習室前に設置し、人体解剖に提供してくださった故人さまとその志を同意してくださったご遺族さまに常に感謝の誠を捧げております。

図2 献体の塔



図3 不老会5つの願い



3 人体解剖トレーニングセミナー

3.1 設立の背景と歴史

1980年代 国立・私学の医学大学の新設が続き、医学生数の増加ともにご遺体の数は不足し、また、解剖学教員の半数以上が他学部出身で、人体解剖の実習を受けたことのない教員が解剖学の実習指導にあたる状態が発生しました。昭和56年に当時の飯島医学部長、解剖学の酒井・佐野両教授により従来の構想を拡大した人体解剖教育センターを新設する案が生まれ、まずは全国の大学の解剖学教官を対象とした人体解剖トレーニングセミナーを実施することから始めることになりました。

昭和56年に献体団体不老会の協力のもと、名古屋大学解剖トレーニングセミナーを開催することになりました。

3.2 トレーニングセミナーの実施状況

本来医学部生が3～4ヶ月かけて全身解剖しますが、本セミナーでは1週間という限られた期間で解剖します（図4）。これが可能にするために、十分な知識を有するベテラン教員(指導教員)1名と、チューターとして十分な経験を積んだ若手教員1名を各実習台に配置しております。参加者は国立・公立・私立大学の医学・歯学部助教クラスの先生とコメディカル解剖教育にあたる教員です。昨年で参加者は累計1016人となりました。解剖教室に新しく着任した解剖経験の少ない若手教員の参加が多い傾向があります。また、本セミナー参加による研修をつまれば後に解剖系の教授や准教授の職に就かれる教員多数おられます。

本セミナーは40年以上の長きにわたり、1000名以上の解剖教員を育成してきた実績がみとめられ、全国の献体団体の取りまとめ役である、篤志解剖全国連合会から篤志献体賞（図5）が授与されました。また、名古屋大学人体解剖トレーニングセミナーは、日本解剖学会からもその貢献が認められており、毎年後援していただいております。

図4 セミナー日程表

日	時間	内容	講師	会場
8月1日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月2日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月3日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月4日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月5日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月6日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月7日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月8日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月9日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月10日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月11日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月12日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月13日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月14日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月15日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月16日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月17日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月18日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月19日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月20日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月21日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月22日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月23日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月24日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月25日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月26日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月27日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月28日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月29日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月30日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室
8月31日	8:00-12:00	解剖学概論・解剖学実習	佐藤 孝	解剖学実習室

図5 篤志献体賞



4 まとめ

医学教育には人体解剖が必須であり、献体者や献体団体の深い理解のもと解剖実習が行われております。解剖トレーニングセミナー（図6）は献体していただいたご遺体を最大限に医学教育に利用させていただくための教員の資質向上に大きく貢献しており、名古屋大学の全国的な貢献として認知され、今後もその活動が継続されることが望まれています。また、最近卒後教育としての若手外科医の手術手技向上のためのご遺体を用いたサージカルトレーニング(CST)の必要性が出てまいりました。これらは、全て特定の法律のもと決まった場所で行われなければなりません。不老会での献体登録推進活動のサポート、成願時のご献体の受け入れ登録管理、さらに防腐処置、実習中のサポート、納棺から火葬、火葬時のご遺族への対応からご遺骨返還まで、全て間違いがあると大きな問題になる過程を、医学系研究科の解剖技術職員が担っております。このように解剖系技術職員は法律の理解、高い技術の取得、着実な職務の遂行が常にもとめられており、今後も解剖業務を通して大学や社会に貢献してゆきたいと思っております。

図6 セミナーポスター

